



文化資産を次世代へ：神宮内・外苑

造園学会を設立した先人等が創り出した「都市の杜」
地球温暖化の直撃、再開発による破壊で危機に瀕しています。



ユニット

中央大学研究開発機構・機構教授、東京大学名誉教授、
国際文化的景観科学者委員会（ISCCL）日本代表

石川 幹子

<問題の所在>

明治神宮内苑・外苑は、「森厳莊重・清雅幽邃」（内苑）、「公衆の優遊の場となる林泉」（外苑）として、大正年間に国費、及び国民の献金・貢献・勤労奉仕により創り出されました。

大地震・戦災・戦後の高度経済成長と激動の時代を経て、100年の星霜を刻み、私たち世代に継承されてきました。

外苑は、関東大震災後には「準公園」、戦災復興特別都市計画をへて、1957年12月、現在の東京都の公園緑地の基本となる見直しが行われ「事業化を要しない公園緑地」として計画決定が行われ今日に至っています。

この間、周辺地域を含め、日本で初めて風致地区に指定され、その面積は内苑をふくめて274.0haであり、首都東京の都心における重要な緑地となっています。

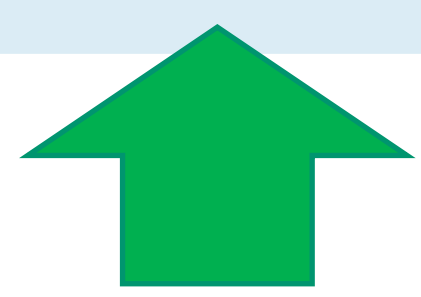
しかしながら、2000年以降の大幅な規制緩和施策により、外苑の都計画公園の面積が3.4ha削除され超高層ビル群が建設される市街地再開発事業が、2023年2月に都により施行認可されました。

2024年10月28日からは、風致地区における樹木の伐採が強行され、2025年5月現在、3000本にのぼる樹木の伐採・移植が実施され、貴重な森林生態系は破壊されました。

この企画・展示は、

- ①一体何が起きているのか？
- ②問題の根源は、どこにあるのか？
- ③世界及び日本の都市では、歴史的都市公園を白昼堂々と破壊している事例はあるのか？
- ④再開発の構図を明らかにする
- ⑤科学的知見に基づき、開発に伴う影響を事前に評価する「東京都環境影響評価審議会」は、何故、事業者の虚偽の報告をそのまま受け入れ検証を行わないのか？
- ⑥「都市公園法第16条」もとづく、「みだりに都市公園を廃止してはならない」という条項に基づく、慎重な検討が行われないのは何故か？
- ⑦外苑再開発の「大義」は、「内苑の緑の護持」とされているが、内苑の森は危機に瀕している。
 - ・水資源の枯渇、
 - ・ナラ枯れ
 - ・他ならぬ明治神宮による森の伐採

について明らかにし、森のサステナビリティの原理・原則を、100年のデータを踏まえて考察します。

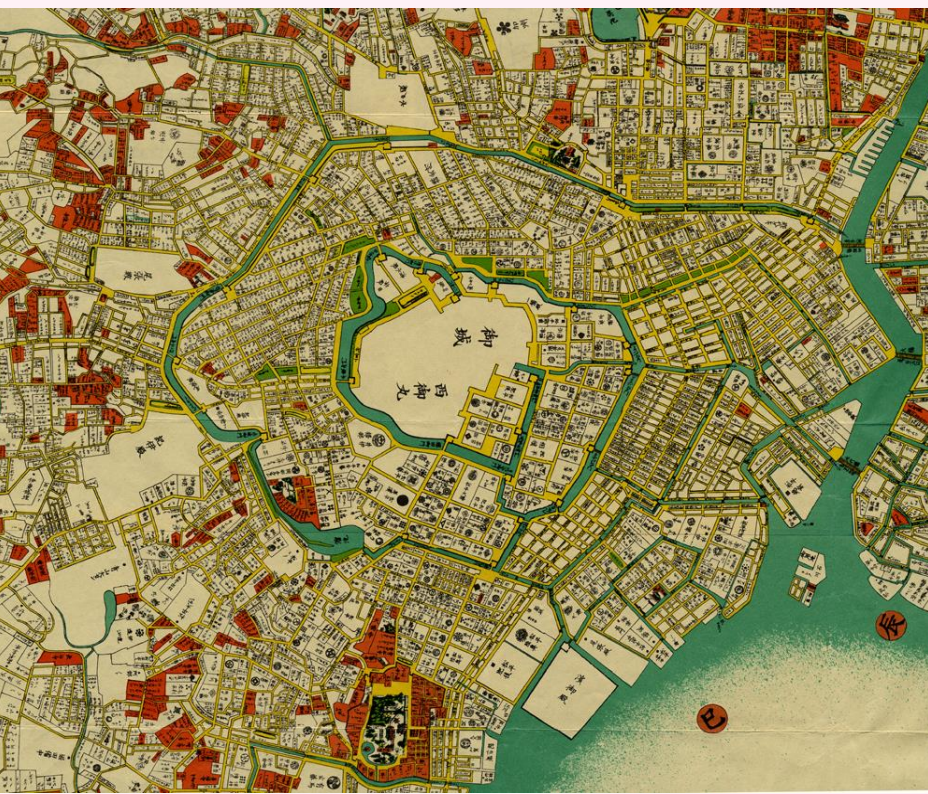
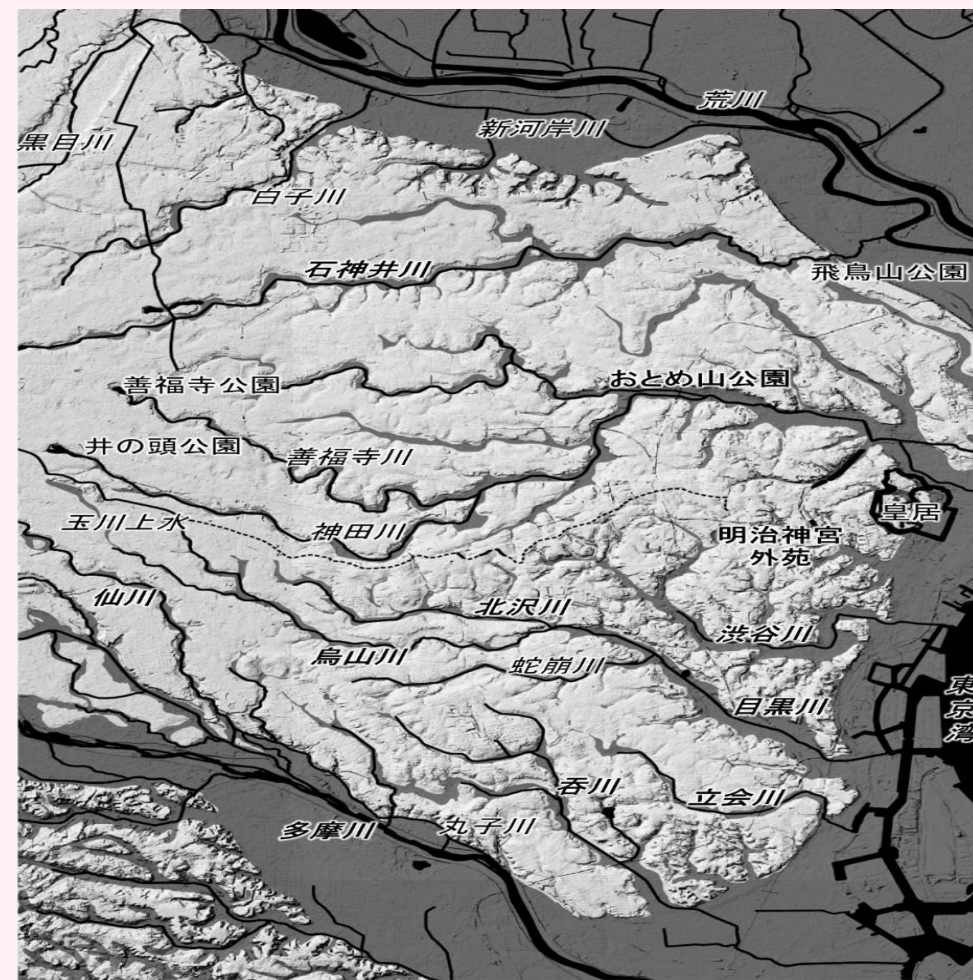


文化資産（反対Cultural Heritage）を破壊する再開発事業に対して、これのまで多くの人びとが声明を発してきた。

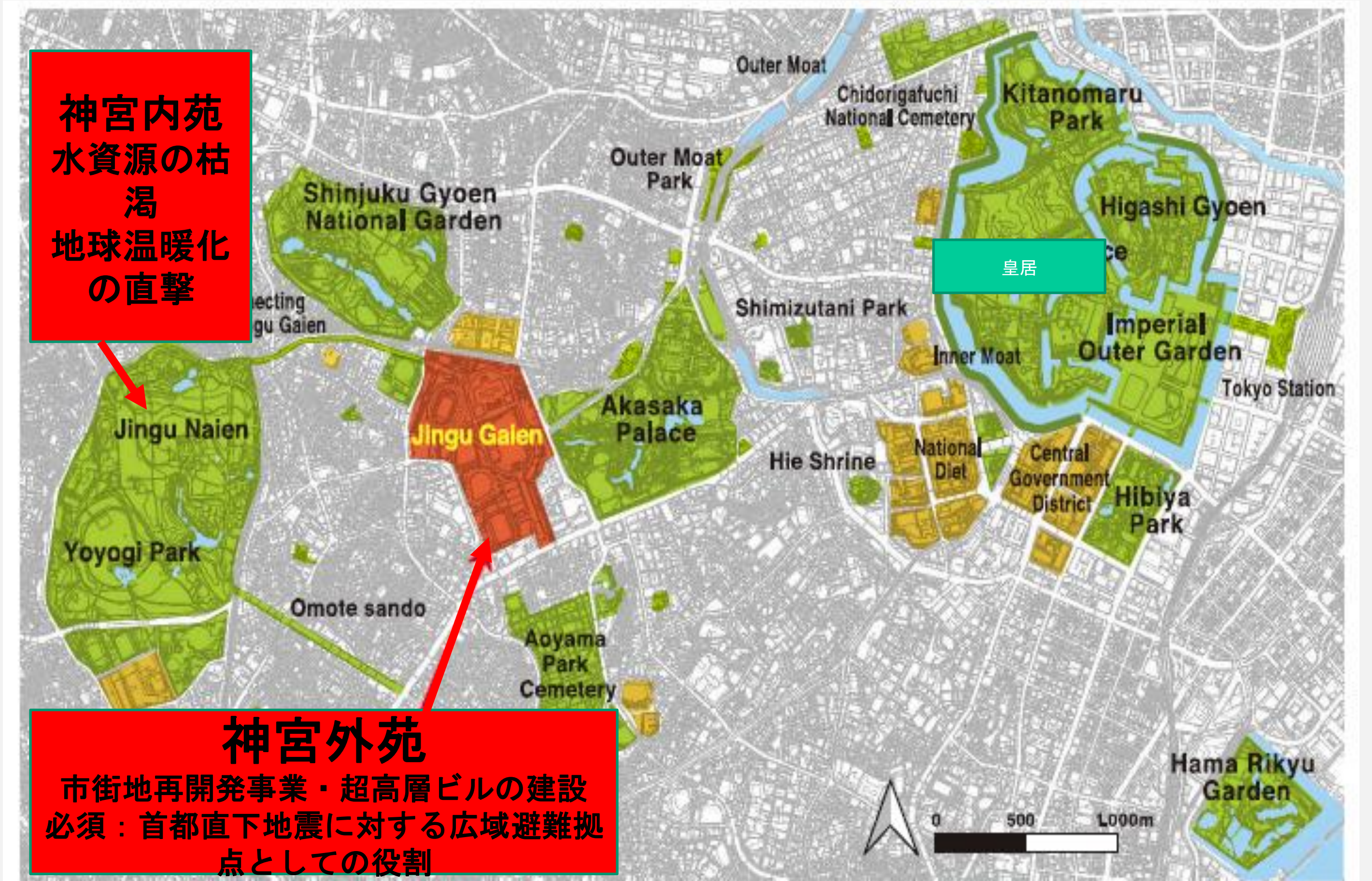
- ・市民団体（23万人以上）
- ・日本イコモス国内委員会（2021年12月より、数多くの声明を科学調査を実施し発表（イコモス：International Council of Monuments and Sites）
- ・IAIA（国際影響評価学会日本支部）
- ・国際イコモス（本部：パリ）
- ・ヘリテージアラート（2023年9月7日）
- ・日弁連会長声明（2024年3月）
- ・国連人権委員会（2024年5月）

東京の基層： 都市の襲と林泉都市

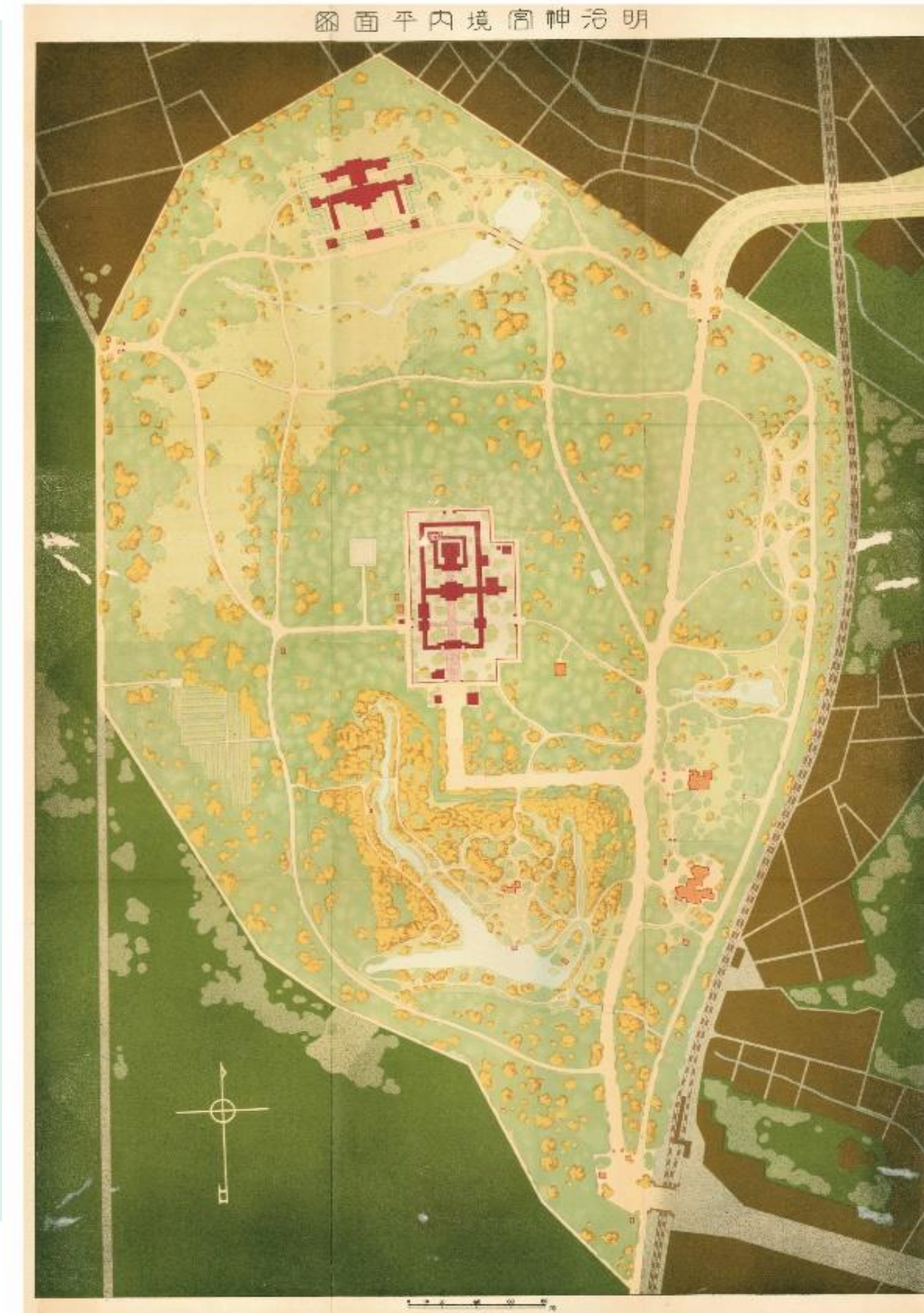
武蔵野台地を小河川が開析し、谷戸・段丘崖・台地上の平坦地、そして江戸湊が東京基層を形成。立地を活かした「林泉都市」の展開



1. 何が起きているのか？



造園学会の創設者が創り出した近代ランドスケープの名作：神宮内苑・外苑



公園連絡道路：日本初のパークシステム



外苑：市街地再開発事業により、超高層ビルの谷間となる。イチヨウ並木直近に神宮球場が建設される。風致地区における樹木の大量伐採の強行（2024年10月28日～）

内苑：水資源の枯渇・ナラガレの蔓延・明治神宮による杜の伐採。



北池（池底が露出）



南池（慢性的水不足）



ナラ枯れの蔓延

正面参道入口の森



清正井の背後の森

創立百周年を迎えた造園学会は？